

令和2年度 学校評価

伊予市立佐礼谷小学校 令和3年2月

【アンケート結果】 4：大変よい 3：よい 2：やや改善を要する 1：改善を要する

【評価基準】 A：肯定率90% B：肯定率80%以上 C：肯定率60%以上 D：肯定率60%未満

【目標値評価】 A：全体肯定率90%以上 B：全体肯定率80%以上 C：全体肯定率60%以上 D：全体肯定率60%未満

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	前期・後期	目標値評価	学校による考察・改善	評価資料	評価基準	肯定率	アンケート結果(%)					
									4	3	2	1		
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	複式及び個に応じた指導法の工夫と改善を行い、基礎・基本の確実な定着に努めているか 目標値：教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	C	複式の授業における指導法や授業の中で個々に対応した個別指導について、工夫と改善が必要である。	児童 保護者 教職員① 地域住民		C	67	0	67	33	0	
			後期	A	複式における授業が、前期に比べ効率的に進められるようになっている。また、個別指導を行うことにより、全体的な学力の向上につながっている。	児童 保護者 教職員① 地域住民	A	100	0	100	0	0		
		体験的・問題解決的な学習を充実させ、自ら考え、判断し、主体的に実践する態度を育てているか 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	地域の方を講師に、様々な体験活動を行なうことができた。主体的、意欲的に児童は活動していると思われる。しかし、ねらいを明確にし、目的意識を持たせた上での活動となるよう工夫したい。	児童 保護者① 教職員② 地域住民	B A	89 100	33 0	56 100	0 0	11 0		
			後期	A	前期に引き続き、体験的な学習を取り入れるよう工夫した。しかし、授業の進度を意識しながら進めてきたため、問題解決的な学習になるよう計画をしても、児童の主体性を十分に引き出すことが難しかった。	児童 保護者① 教職員② 地域住民	A A	100 100	33 25	67 75	0 0	0 0		
		指導過程、指導法の工夫を図り、豊かに表現する力を育てているか 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	少人数であり、授業や行事等で、個々の思いや感想等表現する機会を多く設け、児童も積極的に表現することができている。昨年度からの課題である文法や語彙力など基礎的な部分を伸ばすことで、さらに内容のレベルを上げることができると考える。	児童⑫ 保護者② 教職員③ 地域住民	A A C	100 100 67	68 44 0	32 56 67	0 0 33	0 0 0		
			後期	B	後期はAからBへと下がっているが、教師の評価は上がっている。表現する力が身についてきたと考えられるが、児童は、積極的な発表ができなかったために前期より評価を下げていると考えられる。	児童⑫ 保護者② 教職員③ 地域住民	A A C	92 100 75	59 22 0	33 78 75	8 0 25	0 0 0		
		家庭学習の習慣が身に付いているか 目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	B	ほとんどの児童が真面目に家庭学習に取り組んでいる。今後は、目的意識を持ち取り組むことにより、効果のある家庭学習の内容について考えていきたい。	児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	B C A	84 77 100	59 33 33	25 44 67	16 11 0	0 11 0		
			後期	B	全体的に評価は下がっている。教師の評価がAであることから、ほぼ宿題はできていると考えられるが、児童・保護者の評価の低下は、内容や学習時間に課題があると考えていることが予想される。学習の質や量について考えていきたい。	児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	C C A	75 78 100	58 22 0	17 56 100	17 22 0	8 0 0		
		道徳教育の充実	自他の生命を尊ぶ、優しい心を育てているか 目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	高評価となっている。児童は、家庭・地域の中で大切にされ、いろいろな人と密接に関わる中で、自己有用感が養われ、その中で人を思いやる心も育っている。学校も連携しながら、縦割り活動等の充実を図りたい。	児童④ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	A A C A	100 100 75 100	59 22 25 47	41 78 50 53	0 0 25 0	0 0 0 0	
				後期	A	前期以上に高評価であった。引き続き、児童の自己有用感や人を思いやる気持ちが育つよう、家庭・地域と協力していきたい。	児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	A A A A	100 100 100 100	75 33 0 74	25 67 100 26	0 0 0 0	0 0 0 0	
			人とふれあい、思いやりの心・感謝の心を持ち、自ら実践する態度を育てているか 目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	前期	C	昨年度からの課題である「言葉遣い」については、継続して指導している。児童は、除々に意識し改善されているが、今後もしっかりと「言葉遣い」を意識させ、指導していきたい。	児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	B C C A D A	84 78 78 100 0 96	42 33 11 0 0 63	42 45 67 100 0 33	16 22 22 0 100 4	0 0 0 0 0 0	
				後期	B	本校の課題である「言葉遣い」について、前期と比べ多少評価は上がったが、まだまだ指導が必要な状態である。児童の評価が、他者よりも高いことから、自分たちの課題意識が低いことが分かる。「言葉遣い」について、どこがよくないのか、どうして直さないといけないのか、しっかり考えさせることから指導していきたい。	児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	B B C A D A	89 89 78 100 20 96	56 22 22 0 20 62	33 67 56 100 80 34	11 0 22 0 0 4	0 0 0 0 0 0	
			学校は、各学年の発達段階を考えながら、人権・同和教育を適切に行っているか。 目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	A評定であり、適切な取組がなされている。今後も、子ども達の将来を見据え、差別に気付き、差別解消のために行動できる児童の育成に努めたい。	児童 保護者⑩ 教職員⑦ 地域住民⑤		A A A	100 100 100	33 0 62	67 100 38	0 0 0	0 0 0
				後期	A	A評定ではあるが、日々の生活の中で差別に気付き、差別解消に向けて行動できる児童を育成するために、機会を捉えて指導したい。	児童 保護者⑩ 教職員⑦ 地域住民⑤		B A A	89 100 96	33 20 62	56 80 34	11 0 4	0 0 0
		読書活動を通して、豊かな感性や創造力を育てているか 目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	B	一昨年から比べると、徐々に評価は上がってきているものの、不十分である。今後もみきょん通帳の活用を行うとともに児童の一言感想紹介等の活動も取り入れながら、読書に親しめるような環境づくりを行いたい。	児童⑪ 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	A D A	92 55 100	92 33 0	0 22 100	8 45 0	0 0 0		
			後期	C	保護者の評価は上がったが、児童・教職員の評価が下がっている。家庭での読書が徐々に習慣化してきていることから、保護者の評価が上がったと考えられる。前期は、授業が進められない期間に、多くの読書時間があったため読書量が多かったが、それと比べれば読書量が減ったため評価が下がったと考えられる。	児童⑪ 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	C B C	75 89 75	58 33 50	17 56 25	17 11 25	8 0 0		
		学校関係者評価委員の所見	・高学年になるほど敬語が使える。低学年から言葉遣いについて指導する必要がある。その場その場に応じて、正しい判断をし、けじめをつけた行動が大切。 ・複式の授業は、難しいと思うが、自主的な態度が育っている。			学校の対応	正しい言葉遣いをするということは、以前からの本校の課題である。学校外で地域の方や公民館の方にお世話になる際、顔見知りということもあり、つつい甘えが出てしまい敬語で話せなくなる。いろいろな指導者の方々に様子を聞きながら、実態を把握し指導につなげたい。また、特に高学年を指導することで、よい手本として行動できるようにしたい。							

生徒指導	生徒指導の徹底	挨拶運動、清掃活動を中心に、基本的生活習慣の形成が図れているか	前期	A	昨年度より評価が上がっている。集団登校時に、地域の方への挨拶が元気にできるようになっている。今後も、地域・保護者・学校が連携しながら指導をしていきたい。	児童②あい 児童③清掃 保護者⑦ 教職員⑨ 地域住民④	B A A A A	84 92 100 100 100	68 84 33 0 53	16 8 67 100 47	16 0 0 0 0	0 8 0 0 0	
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の８０％以上が肯定（３・４）	後期	B	児童・教職員の評価が前期と比べ下がった。集団登校の様子を聞くと、地域の方に元気な挨拶ができていないとのこと。前期に指導した際には、その後張り切って元気な挨拶ができていたが、意欲が継続していない様子である。あたり前のこととして習慣化できるよう指導していきたい。	児童②あい 児童③清掃 保護者⑦ 教職員⑨ 地域住民④	C A A B A	67 92 100 80 100	50 75 33 0 79	17 17 67 80 21	25 8 0 20 0	8 0 0 0 0	
		いじめ、不登校問題への積極的な対応ができているか	前期	A	高評価とはなっている。しかし安心することなく、児童のＳＯＳのサインを見逃すことがないよう、今後とも未然防止、早期対応、早期解決を常に心がけたい。	児 童 保護者⑨ 教職員⑩ 地域住民							
		目標値：保護者、教職員の８０％以上が肯定（３・４）	後期	A	本校ではいじめ、不登校といったことが起こっていないものの、これらの問題はいつ起こるか分からない。しっかりアンテナを張り、保護者と連携を取りながら未然防止、早期対応・解決に心掛けたい。	児 童 保護者⑨ 教職員⑩ 地域住民							
学校関係者評価委員の所見		・寒くなってきて挨拶の声が小さくなった。また、きちんとした挨拶ができていない児童もいる。 ・集団登校では、班長が挨拶しないと、下学年ができないところがある。自分から挨拶する姿勢を身に付けてほしい。			学校の対応	挨拶については、今年度2学期に指導し改善されていたが、寒くなったせいか、また声が小さくなっているようである。集団登校の様子を聞いたり登校指導を行ったりしたときなど、機会を捉えて継続して指導していきたい。また、班長や高学年が挨拶したのを聞いて下学年が挨拶するというように自発的な挨拶ができていない児童が多い。自分から進んでする習慣も身に付くよう指導をしていきたい。							

保健管理	健康教育の推進	早ね、早起き、朝ごはんの習慣は定着しているか	前期	B	昨年に続き「早寝」が課題となっている。家に帰ってから、やるべきことが多いこともあるが、時間の使い方を再検討させ家族で話し合う時間を設けていくよう促していきたい。	児童④寝起 児童⑤ご飯 保護者⑪ 教職員⑫ 地域住民	B B B A A	84 84 89 100 A	59 76 33 0 A	25 8 56 100 A	8 16 11 0 A	8 0 0 0 A	
		目標値：児童、保護者の８０％以上が肯定（３・４）	後期	B	保護者・児童の評価は上がったが、教職員の評価が下がっている。家庭でのテレビやゲームの時間が長く、「早寝」に影響している実態がある。保護者・児童の評価から、改善されている様子が伺えるため、継続して指導していきたい。	児童④寝起 児童⑤ご飯 保護者⑪ 教職員⑫ 地域住民	A A A C A	92 92 100 60 A	42 84 22 0 0	50 8 78 60 A	8 8 0 40 A	0 0 0 0 A	
		個に応じた体力づくりはできているか 体幹等も鍛え、正しい姿勢が維持できるか 目標値：児童、保護者、教職員の８０％以上が肯定（３・４）	前期	C	体力づくりという面では、今までの伝統を引き継ぎよくできている。ただし、昨年から課題としている姿勢の評価が低かった。今後改善できるよう、姿勢をよくすることを意識させたり、体幹のトレーニングも行ったりするなど指導を継続したい。	児童⑥体力 児童⑩姿勢 保護者⑫ 教職員⑬体力 教職員⑭姿勢 地域住民	B C A A C A	84 67 100 100 0 A	59 25 44 25 0 A	25 42 56 75 0 A	8 33 0 0 100 A	8 0 0 0 0 A	
			後期	B	体力面では、毎朝のマラソンや縄跳びなどを通じて、意欲的に体力づくりに取り組んでいる。姿勢については、多少評価は上がってきたが、まだ改善されたとは言えない状況であるため、継続して声掛けをしていきたい。	児童⑥体力 児童⑩姿勢 保護者⑫ 教職員⑬体力 教職員⑭姿勢 地域住民	A C A A C A	92 75 100 100 60 A	75 17 78 60 0 A	17 58 22 40 60 A	8 8 0 0 40 A	0 17 0 0 0 A	
	学校関係者評価委員の所見		・朝マラソンは継続して行ってほしい。 ・遅くまでテレビを見ているなど、早寝が十分にできていない児童もいるようだ。			学校の対応	・毎朝のマラソンをどの児童も真面目に行っており、体力もついている。今後もマナーリ化しないように、目標の持たせ方を工夫しながら継続して取り組ませたい。 ・1月の学校保健委員会で、児童・保護者対象に、「睡眠の大切さ」をテーマにした講演会を行った。その後、早寝をするよう心掛ける児童もでてきたため、どの児童も習慣化できるよう毎月の生活習慣チェック時に、睡眠の大切さを思い起こさせながら指導していきたい。						
	保護者・地域との連携	地域に根ざした特色ある学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした体験的な学習を推進しているか	前期	A	高評価となっている。地域、保護者の方々の御協力により本当によい学習ができています。	児 童⑬ 保護者⑬ 教職員⑮ 地域住民⑥	A A A A	100 100 100 96	92 67 100 63	8 33 0 33	0 0 0 0	0 0 0 0
目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の８０％以上が肯定（３・４）			後期	A	前期に引き続き高評価となっている。地域の方々の御協力により、効果的な学習ができていたため、今後も、計画的に進めていきたい。	児 童⑬ 保護者⑬ 教職員⑮ 地域住民⑥	A A A A	100 100 100 100	100 67 100 79	0 33 0 21	0 0 0 0	0 0 0 0	
児童の活動の充実をめざし、公民館、老人クラブ、住民自治組織されだにとの連携に努めているか			前期	A	様々な情報を学校からだけでなく、保護者、地域からもいただいていることに感謝している。今後も、積極的に保護者、地域との連携を図っていきたい。	児 童 保護者⑭ 教職員⑯ 地域住民⑦							
目標値：保護者、教職員、地域住民の８０％以上が肯定（３・４）			後期	A	前期に引き続き高評価となっている。今後も、積極的に保護者、地域との連携を図っていきたい。	児 童 保護者⑭ 教職員⑯ 地域住民⑦							
学校関係者評価委員の所見		・稲作や田んぼでの遊び、いもほり等で児童と関わった。			学校の対応	本校は、多くの地域人材に恵まれており、各学年の授業や学校行事等で御協力いただき、効果的な学習ができています。今後も、地域の方々の協力を得ながら、地域に根ざした特色ある学校づくりに向けて努力していきたい。							

